

阿佐ヶ谷囃子



〔登録年月日〕昭和五七年一月一日
〔種別〕無形民俗文化財（民俗芸能）
〔名称〕阿佐ヶ谷囃子
〔点数〕
〔所有者等〕阿佐ヶ谷囃子保存会

阿佐ヶ谷囃子

阿佐ヶ谷囃子は江戸時代末期の頃、横川初五郎、弁次郎の兄弟が師匠となって手ほどきしたものと伝えられている。流派は「田渕流」ともいわれるが、明らかではない。この囃子は区内では最も早くから伝えられており、ここを源として井草をはじめ近隣の中野・戸塚・鷺ノ宮などにも流布していったという。

編成は大太鼓（おおど）一人、小太鼓（しらべあるいはながれ）二人、笛（とんび）一人、鉦（よすけ）一人の五人で、テンポは中間の囃子である。

曲目は「打込」「屋台」「鎌倉」「四丁目」「屋台」の順に演じられるが、他に「玉入れ」「玉ころがし」なども演じることができる。

こうした伝統を持つ阿佐ヶ谷囃子も、第二次大戦中は一時中断のやむなきに至ったが、昭和二七年（一九五二）頃から再び活動を開始し、昭和四七年（一九七二）には保存会を結成してその保存に努めている。

現在は阿佐谷神明宮の祭礼や地域のお祭りなどで活躍している。

【文化財所在地】

